

第187回 中小企業の景気動向調査

調査時点	2021年2月下旬～3月上旬
調査対象期間	2021年1月～3月実績 2021年4月～6月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先 1,730社(大阪府内ならびに尼崎市)
回答企業数	735社
回答率	42.4%
調査方法	調査票郵送により回収
分析方法	DI(Diffusion Index)を中心に分析 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値 [例:売上DIの場合] 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業 45%	「変わらず」 20%	売上が「減少」した企業 35%
--------------------	---------------	--------------------

45% - 35% = 10 ← 売上DI

アンケート回答企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4	32	33	38	8	30	28	1	35	215	29.3%	29.3%
5～10	72	25	13	8	46	11	5	14	188	25.6%	54.8%
11～20	73	13	8	2	17	12	7	4	149	20.3%	75.1%
21～30	24	6	1	2	8	8	6	0	58	7.9%	83.0%
31～50	21	10	1	1	3	9	7	7	51	6.9%	89.9%
51～100	18	7	3	0	3	8	7	3	41	5.6%	95.5%
101～	10	5	2	2	1	3	3	0	32	4.4%	99.9%
無回答	0	0	0	3	3	1	1	3	9	1.2%	101.1%
計	250	99	66	26	111	80	37	66	735	100.0%	
構成比	34.0%	13.5%	9.0%	3.5%	15.1%	10.9%	5.0%	9.0%	100.0%		

(製造業の内訳)

食料品	繊維	木材	家具・建具	パルプ・紙	印刷	化学
4.9%	8.9%	1.2%	1.6%	2.0%	8.9%	9.3%
ゴム・革	鉄鋼	建材	非鉄金属	金属製品	電子部品	その他
2.4%	9.8%	0.0%	3.3%	33.4%	3.3%	11.0%

総合

明るい見通し 回復軌道に乗るか？

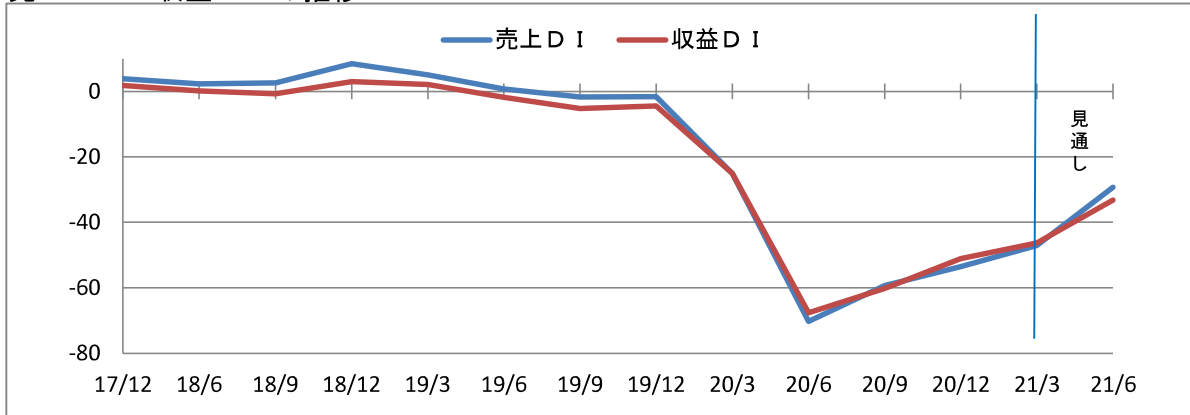
売上D Iは-47.1（前回比+6.5ポイント）、収益D Iは-46.3（前回比+4.8ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の1-3月の見通しから売上D Iは10.4ポイント、収益D Iは12.1ポイント上振れています。その要因は、製造業が大きく回復したことや、緊急事態宣言が前倒しで解除され、人出が戻ったことにあると思われます。売上D Iは、運輸業が22.9ポイント、製造業が21.1ポイント、建設業が11.2ポイント上昇しましたが、一方で飲食業が24.3ポイント、小売業が23.9ポイント下落し苦戦が続いています。2021年4-6月期は、売上D Iが17.8ポイント、収益D Iが13.1ポイントともに上昇すると予想しています。新型コロナウイルス感染症の影響が長期化していますが、待望のワクチン接種が始まり全業種で売上D I、収益D Iが上向いています。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が70.8%（前回比△2.3ポイント）と不動産を除く全業種で最大となりました。また「仕入単価上昇」が43.9%に急上昇し、特に飲食業は、野菜価格の上昇から70.8%となっており、今後、収益への影響が懸念されます。

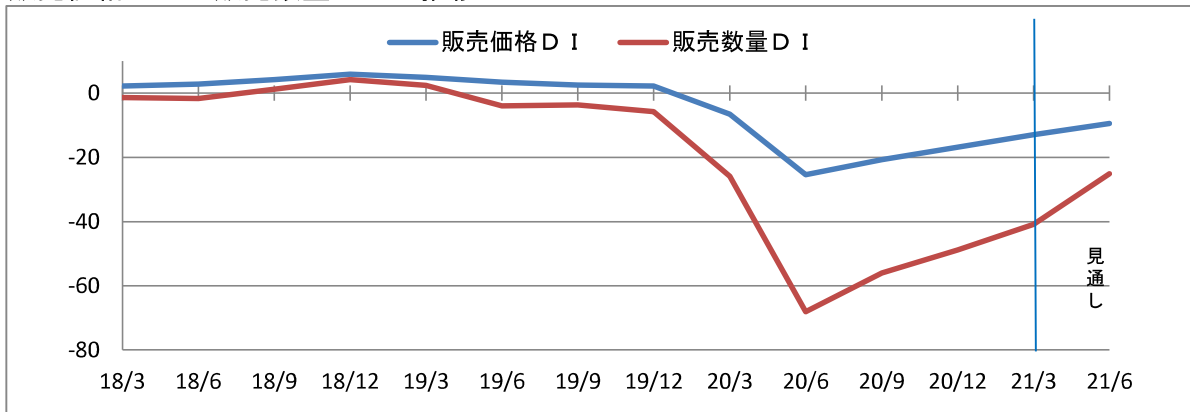
設備投資は「実施中」が11.8%（前回比+1.0ポイント）、「予定あり」が11.7%（前回比+2.0ポイント）で合計23.5%と過去1年で最大となりました。特に製造業やサービス業で設備投資意欲は上昇しています。資金調達方法は「全て自己資金」が37.8%と多く、内容は「機械等の新設・増設」が32.3%となっています。

売上D I・収益D Iの推移

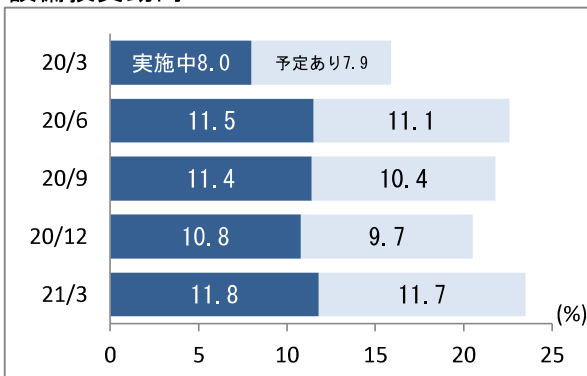
n=735



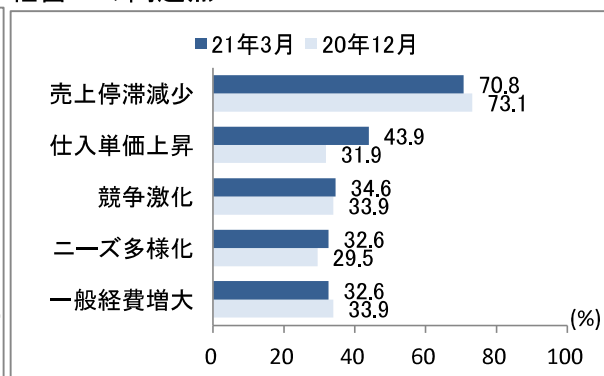
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：平山)

製造業

売上DI急上昇 一条の光差す

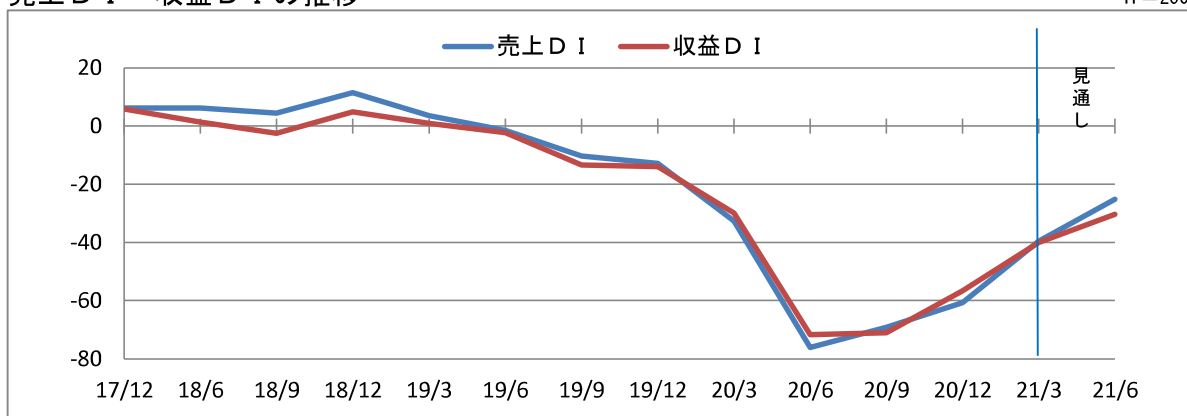
売上DIは-39.6（前回比+21.1ポイント）、収益DIは-40.0（前回比+16.6ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の1-3月の見通しから売上DIは22.5ポイント、収益DIは22.6ポイント上振れし、中国向けの輸出（情報機器向け材料や自動車など）や家電関連の受注が増加したことが主な要因と思われます。中には、スーパー向け陳列棚や台所用品の受注が増加し、巣ごもり需要に支えられ売上が回復する企業も見られます。2021年4-6月期は、売上DIが14.5ポイント、収益DIが9.7ポイントともに上昇すると予想しています。ワクチン接種が始まり新型コロナウイルス感染症は収束し、業況回復が進むことを期待しています。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が76.1%（前回比△8.6ポイント）と依然として最大となりました。また「仕入単価上昇」が51.0%（前回比+16.5ポイント）に上昇し、鉄鋼など材料価格の高騰が大きな課題となっています。

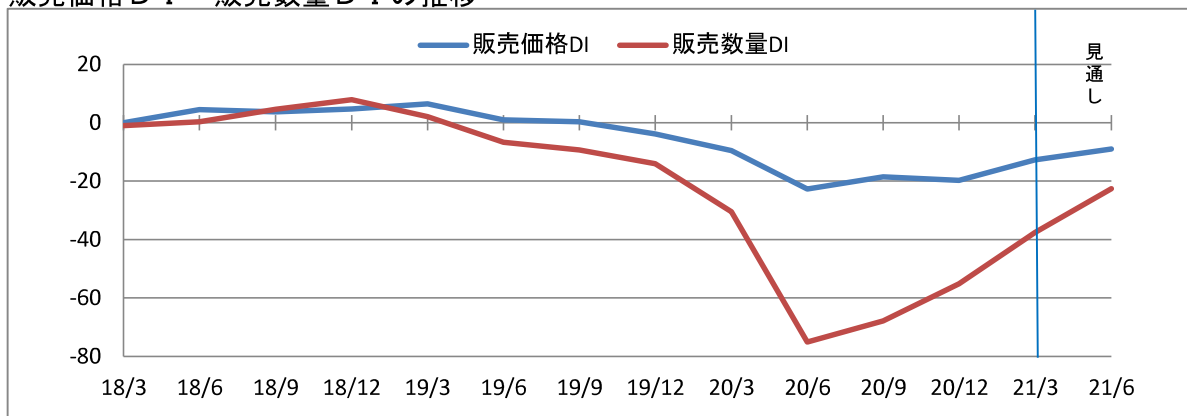
設備投資は「実施中」が13.5%（前回比+1.2ポイント）、「予定あり」が13.5%（前回比+2.8ポイント）で合計27.0%となり、設備投資意欲は上昇しました。内容は「機械の新設・増設」が50.0%、資金調達方法は「全て自己資金」が39.3%となっています。売上の回復と先行きへの期待が、設備投資の上昇に結び付いたと思われます

売上DI・収益DIの推移

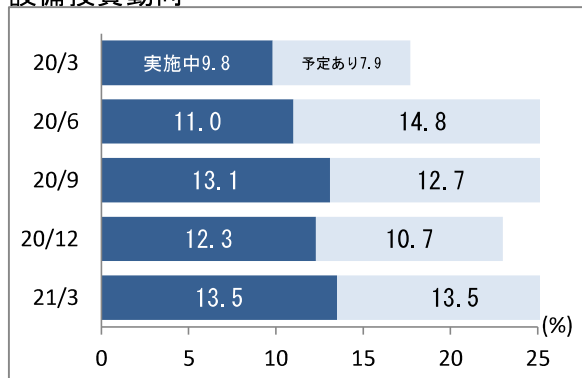
n=250



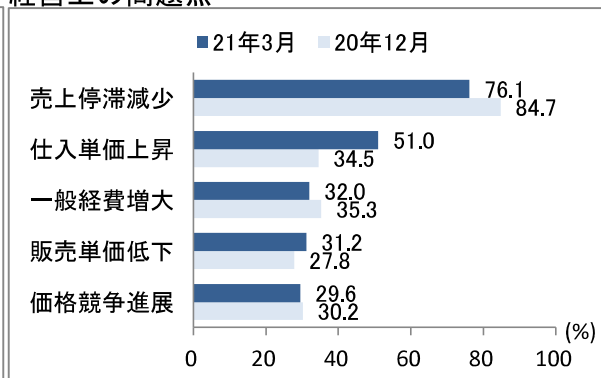
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：稲津、萩原)

卸売業

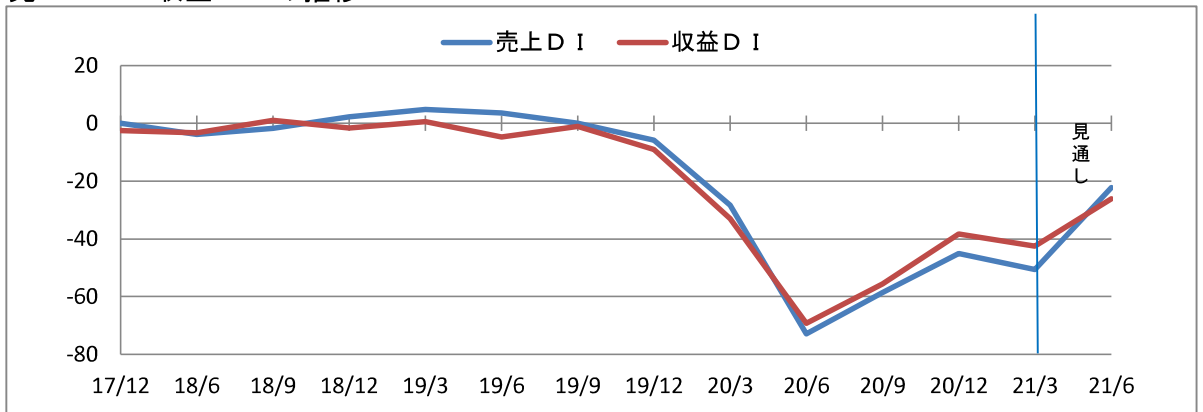
試練の緊急事態宣言 一進一退

売上D Iは-50.6（前回比△5.6ポイント）、収益D Iは-42.5（前回比△4.1ポイント）とともに下落しました。前回調査時の1-3月の見通しから売上D Iは6.5ポイント、収益D Iは21.2ポイント上振れしています。売上が上振れした企業の中には、加湿器の販売が好調な企業があります。一方、緊急事態宣言の影響で、飲食関連を扱う企業は大きな打撃を受けており、扱う商品により明暗が分かれています。2021年4-6月期は、売上D Iが28.4ポイント、収益D Iが16.3ポイントとともに大きく上昇すると予想し、新型コロナウイルス感染症収束による需要回復に期待を寄せています。

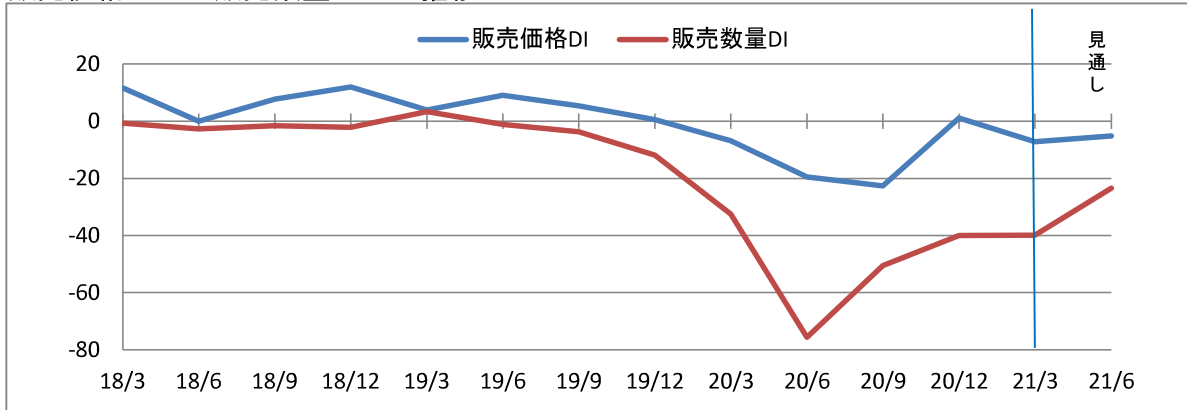
経営上の問題点は「売上停滞減少」が77.3%（前回比△4.9ポイント）と最大となっていますが、「競争激化」が46.4%（前回比+9.7ポイント）、「仕入単価上昇」が41.2%（前回比+7.9ポイント）に上昇しています。

設備投資は「実施中」12.1%（前回比△0.3ポイント）、「予定あり」が1.1%（前回比△5.6ポイント）で合計13.2%となり、設備投資意欲は大きく後退しました。内容は「事務所、店舗、工場等の新設・増設」が33.3%、「事務所、店舗、工場等の保守・更新」「機械等の新設・増設」「車両」がそれぞれ25.0%、資金調達方法は「全て自己資金」が91.7%となっています。

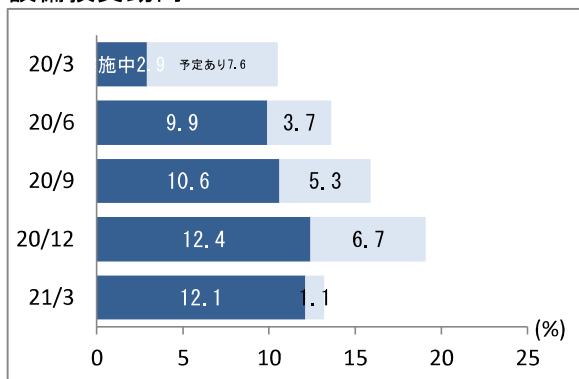
売上D I・収益D Iの推移



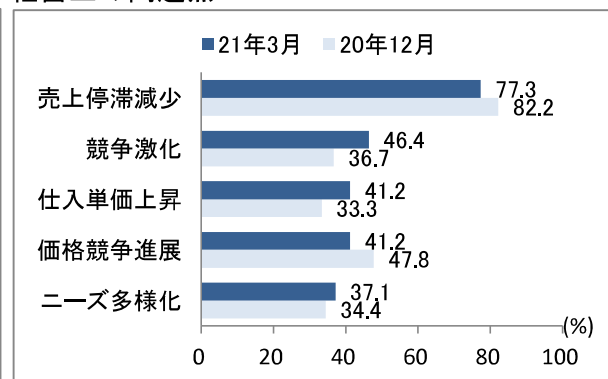
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：萩原、福井)

小売業

慣れた「新生活様式」 戻るか顧客？

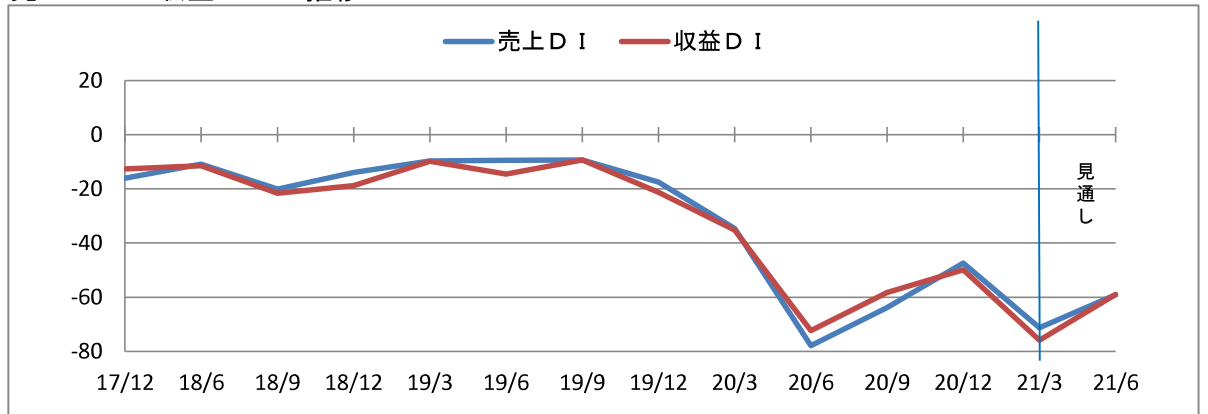
売上D Iは-71.3（前回比△23.9ポイント）、収益D Iは-75.8（前回比△25.9ポイント）とともに大きく下落しました。年末商戦で持ち直した売上は、緊急事態宣言による外出自粛や入場数制限により減少しています。

2021年4-6月期は、売上D Iが12.2ポイント、収益D Iが16.8ポイント上昇すると予想しています。緊急事態宣言解除による需要回復を期待していますが、個人消費マインドは力強さに欠けます。

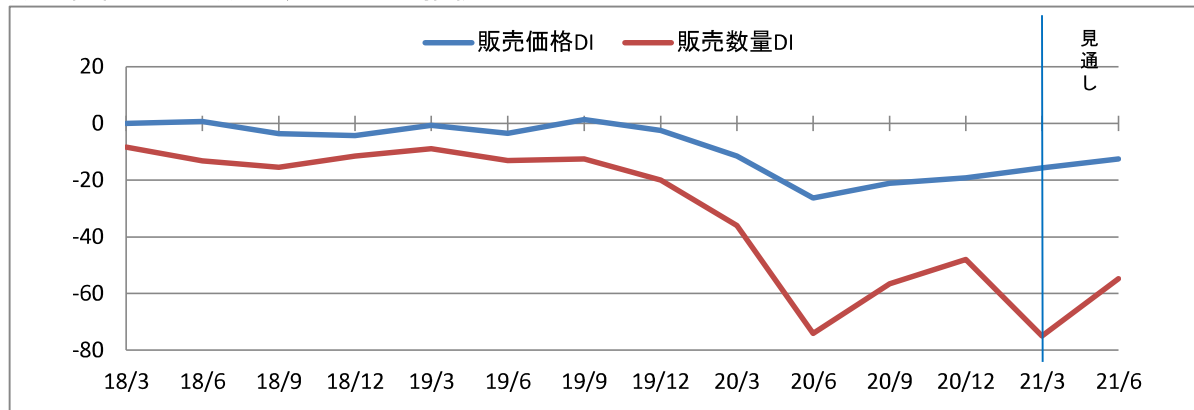
経営上の問題点は「売上停滞減少」が77.3%（前回比+8.8ポイント）と最大ですが、「ニーズ多様化」、「販売単価低下」も上昇し、多岐に亘る課題を抱えています。

設備投資は「実施中」が4.8%（前回比△4.0ポイント）、「予定あり」が12.9%（前回比+8.5ポイント）で合計17.7%となり、設備投資意欲は上昇しました。内容は「事務所、店舗、工場等の新設・増設」や「機械等の新設・増設」がそれぞれ33.3%、資金調達方法は「全て自己資金」が37.5%、「一部借入する」が25.0%となっています。

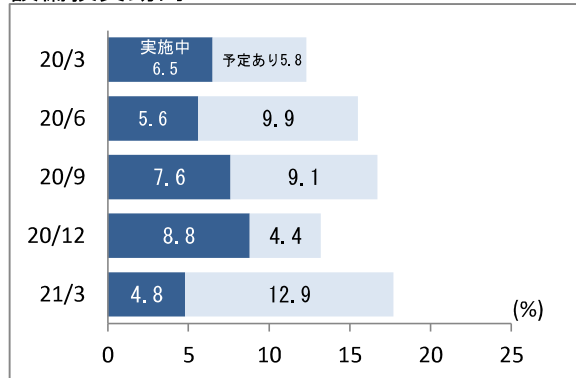
売上D I・収益D Iの推移



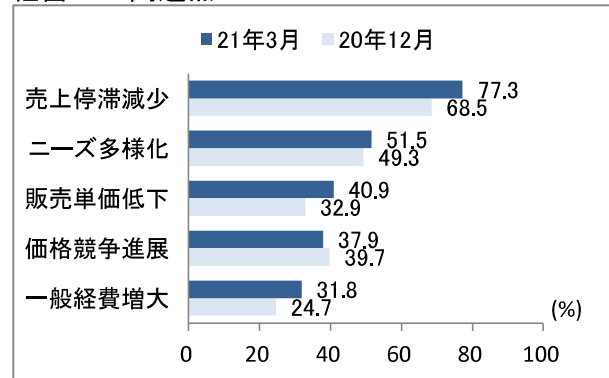
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：宗和、福井)

飲食業

もう限界「緊急事態宣言」

売上D Iは-100.0（前回比△24.3ポイント）、収益D Iは-88.5（前回比△15.5ポイント）となり、すべての飲食業で売上が減少するなど、一段と厳しい経営を強いられています。「緊急事態宣言はもう止めてほしい」という声が多く、飲食業は苦境に立たされています。

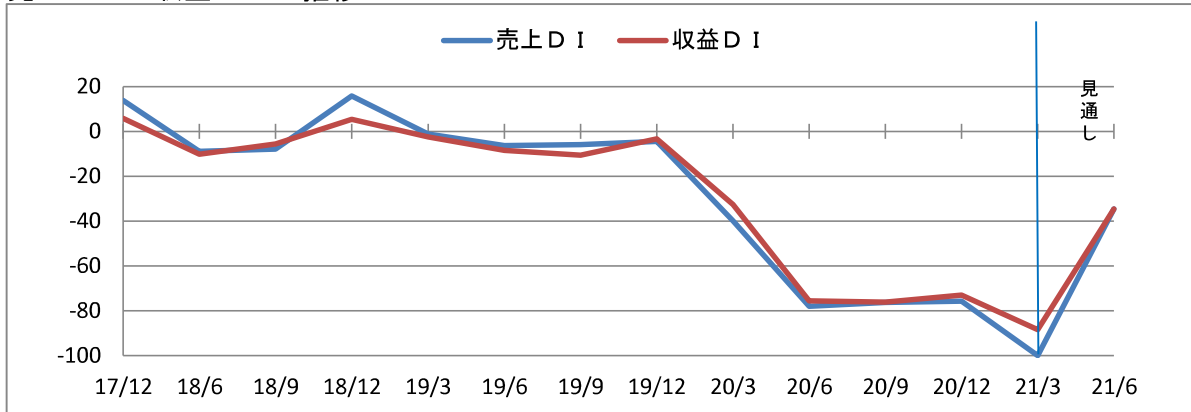
2021年4-6月期は、売上D Iが65.3ポイント、収益D Iが53.8ポイントともに上昇すると予想しています。緊急事態宣言解除に大きく期待していますが、一方では「3月1日より緊急事態宣言が解除されたが、どれくらい顧客が戻るか不安だ。リバウンドも怖い」という声も聞かれます。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が79.2%（前回比△4.1ポイント）と依然として深刻であり、「仕入単価上昇」が70.8%（前回比+23.6ポイント）となりました。巣ごもり需要や野菜価格の上昇が大きな課題として浮上しています。また、「資金繰り・調達難」が29.2%（前回比+12.5ポイント）に上昇し、一時落ち着いた資金繰りが再び課題になりつつあります。

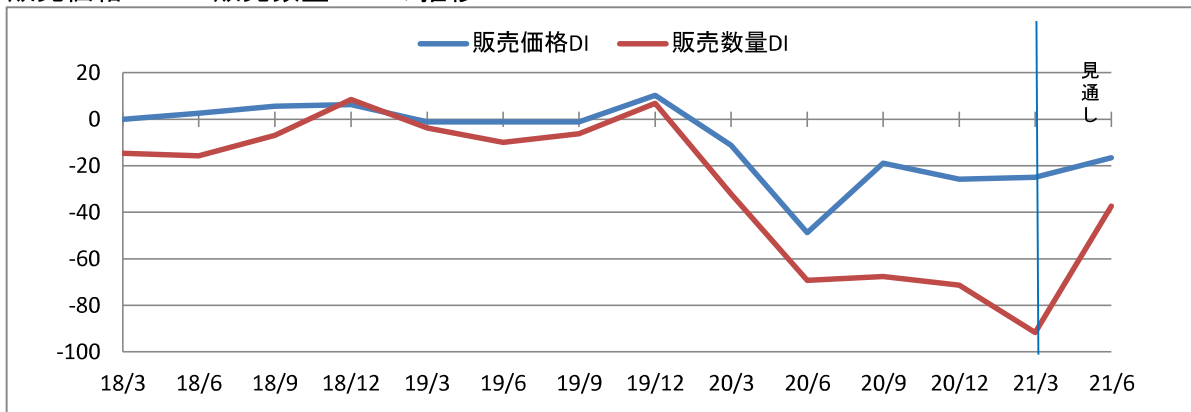
設備投資は「実施中」が16.7%（前回比+16.7ポイント）、「予定あり」が4.2%（前回比△4.1ポイント）で合計20.9%となりました。資金調達方法は「一部借入する」が40.0%となっています。

売上D I・収益D Iの推移

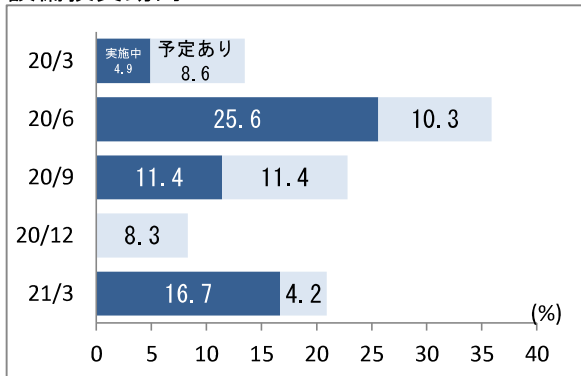
n=26



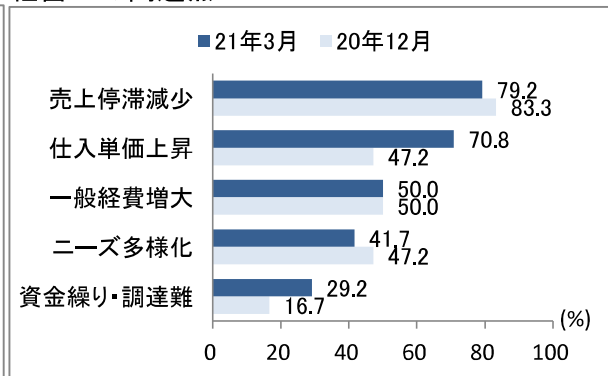
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：仲井、竹並)

建設業

受注伸び悩み 待たれる総合経済対策効果

売上D Iは-41.9（前环比+11.2ポイント）、収益D Iは-43.7（前环比+6.3ポイント）となりともに上昇しました。大阪の公共工事は請負金額が前年に比べ減少していますが、大手建設業からの受注は比較的順調に推移し、売上の回復に結び付きました。

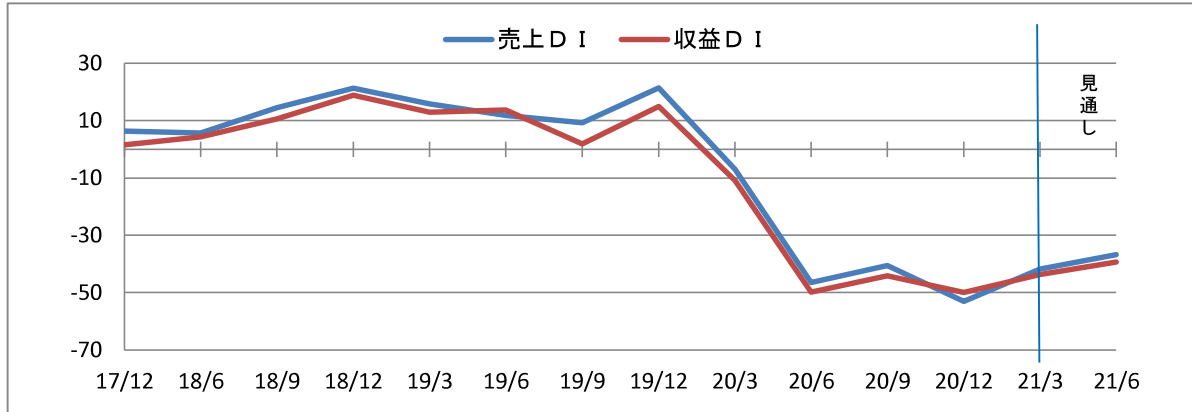
2021年4-6月期は、売上D Iが5.2ポイント、収益D Iが4.3ポイントとともに上昇すると予想しています。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が69.5%（前期比△2.4ポイント）と最大となりましたが、「仕入単価上昇」が47.6%（前环比+15.3ポイント）に上昇し、今後収益への影響が懸念されます。

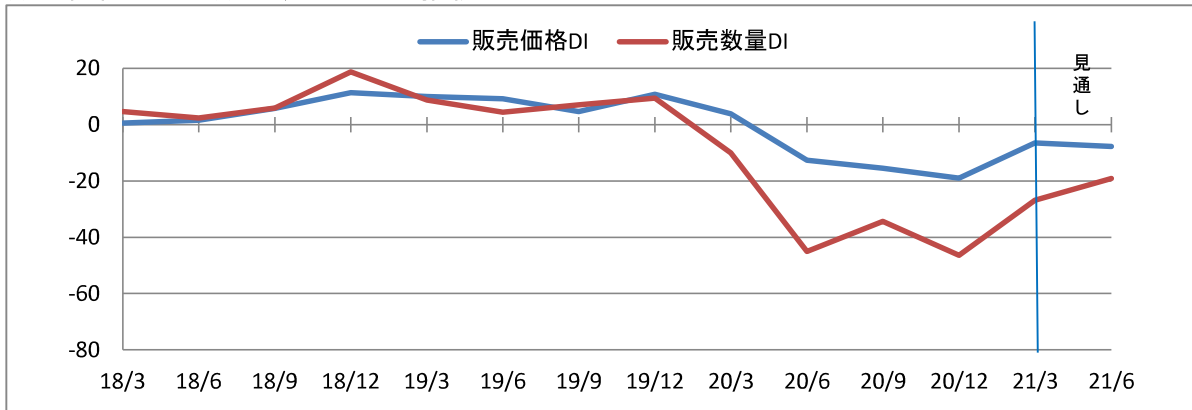
設備投資は「実施中」が9.3%（前环比△0.4ポイント）、「予定あり」が12.1%（前环比+0.3ポイント）で合計21.4%となりました。内容は「車両」が47.8%、「事務所、店舗、工場等の新設・増設」が43.5%、資金調達方法は「一部借入する」が48.0%、「全て自己資金」が30.4%となっています。

売上D I・収益D Iの推移

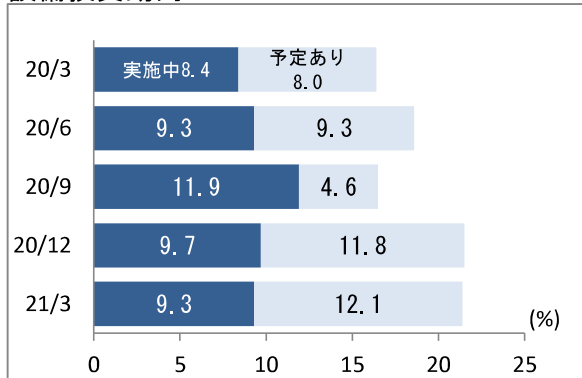
n=111



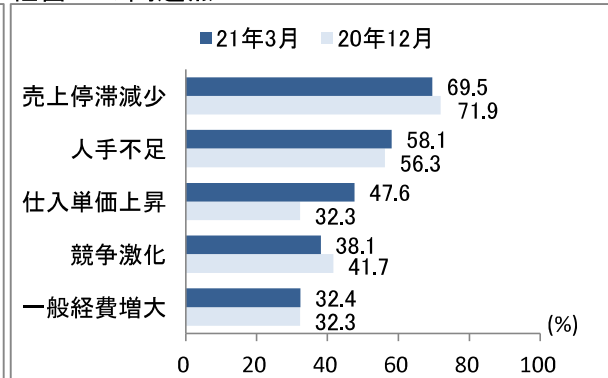
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：仲井、楠)

サービス業

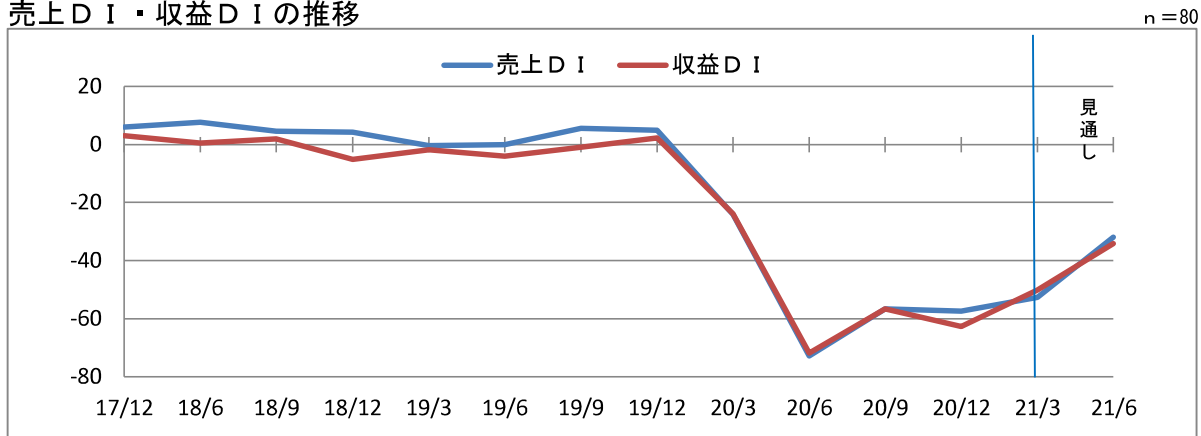
待望ワクチン接種 密避けられず

売上D Iは-52.6（前回比+4.8ポイント）、収益D Iは-50.1（前回比+12.6ポイント）となりともに上昇しました。前回調査時の1-3月の見通しから売上D Iは12.7ポイント、収益D Iは18.7ポイント上振れしています。その要因は、3月7日まで延長された2回目の緊急事態宣言解除が2月末に前倒しされ人出が戻ったことにあると思われます。2021年4-6月期は、売上D Iが20.6ポイント、収益D Iが15.9ポイントとともに上昇すると予想しています。介護業界では、「仕事柄、密にならざるを得ず、コロナ感染症はワクチンで収束してもらわないと、ビクビクして仕事をしないといけない」との声が聞かれ、ワクチン接種で新型コロナウイルス感染症への不安が和らぎ、売上の回復へと繋がることを期待しています。

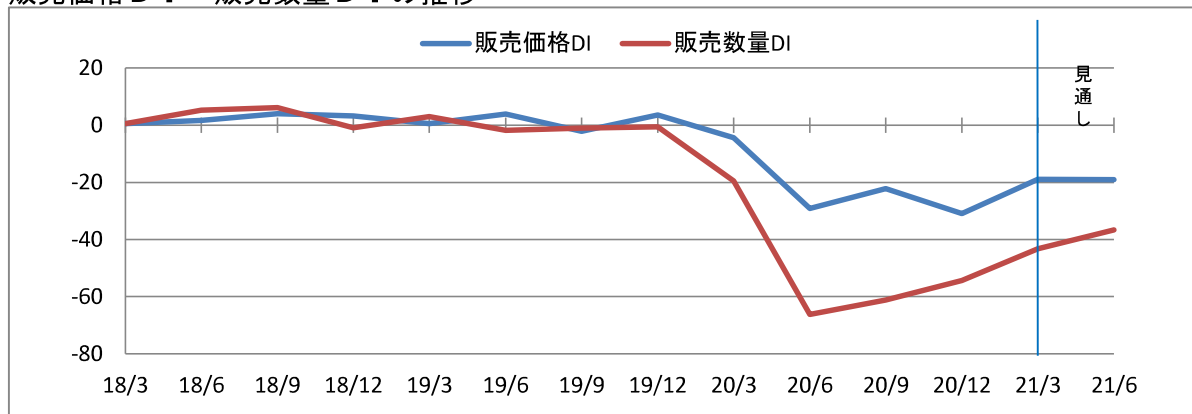
経営上の問題点は、「売上停滞減少」が60.0%（前回比+7.9ポイント）と依然最大ですが、「ニーズ多様化」が48.6%（前回比+13.4ポイント）、「競争激化」が42.9%（前回比+9.1ポイント）に上昇するなど、様々な課題への対応を迫られています。

設備投資は「実施中」が9.9%（前回比+1.4ポイント）、「予定あり」が16.9%（前回比+7.0ポイント）で合計26.8%となり、設備投資意欲は上昇しました。内容は「事務所、店舗、工場等の保守・更新」が47.4%、資金調達方法は「一部借入する」が36.9%となっています。

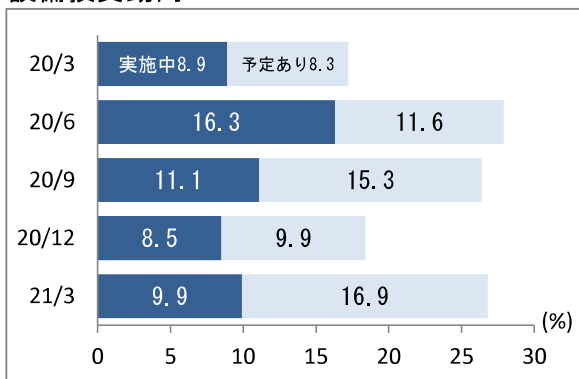
売上D I・収益D Iの推移



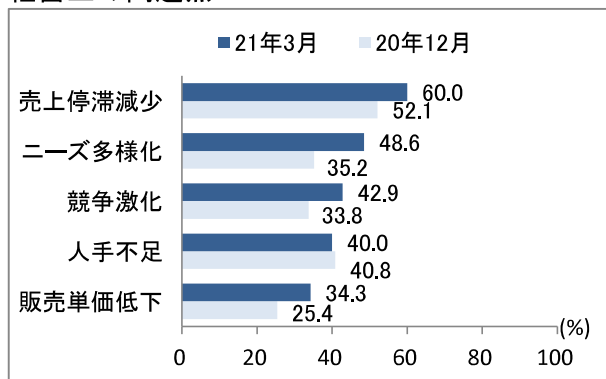
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：芝田、楠)

運輸業

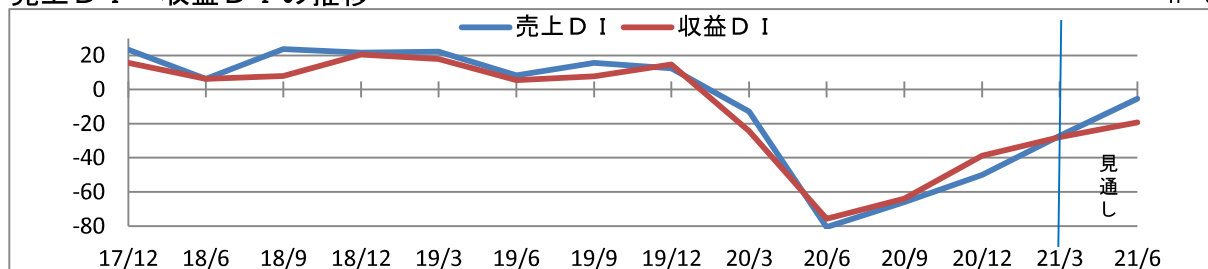
巣ごもり 鉄鋼 動き出した物流

売上D Iは-27.1（前回比+22.9ポイント）、収益D Iは-27.9（前回比+10.7ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の1-3月の見通しから売上D Iは29.1ポイント、収益D Iは17.3ポイント上昇しています。その要因は巣ごもり需要や製造業の売上回復で、食料品や家電、鉄鋼を扱う企業で売上が増加したことにあると思われます。2021年4-6月期は、売上D Iが21.7ポイント、収益D Iが8.5ポイント上昇すると予想しています。緊急事態宣言解除が追い風となり、見通しは明るくなっています。

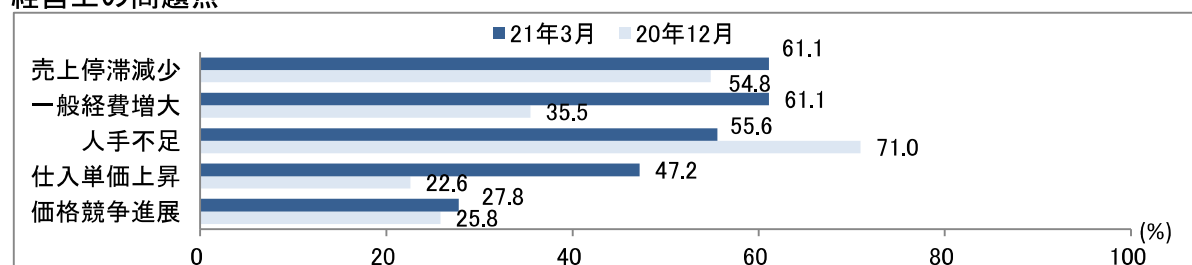
経営上の問題点は、「売上停滞減少」61.1%（前回比+6.3ポイント）、「一般経費増大」が61.1%（前回比+25.6ポイント）に急伸しています。

売上D I・収益D Iの推移

n=37



経営上の問題点



(中小企業診断士：萩原、福井)

不動産業

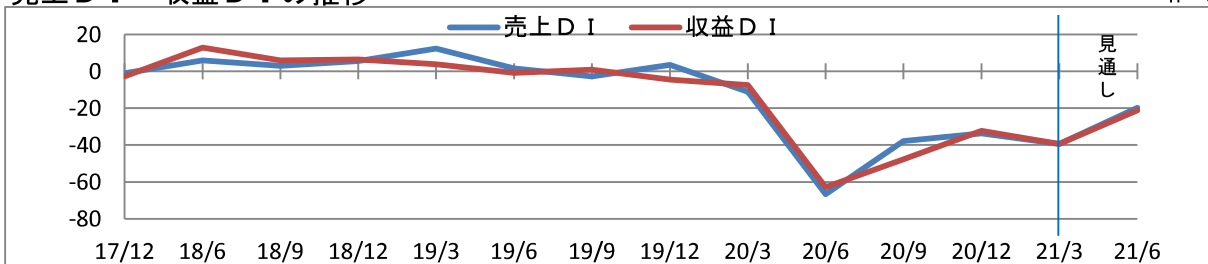
価格高止まり 不足する売り情報

売上D Iは-39.4（前回比△5.7ポイント）、収益D Iは-39.4（前回比△7.0ポイント）とともに下落しました。中小企業は、大手と比べ売り情報不足で売買成立が少なく、物件価格は依然高止まりしています。

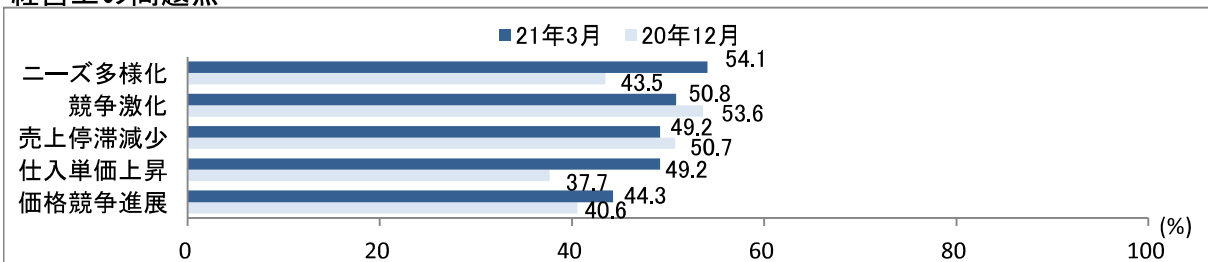
2021年4-6月期は、売上D Iが19.7ポイント、収益D Iが18.2ポイントともに上昇すると予想しています。経営上の問題点は、「ニーズ多様化」が54.1%（前回比+10.6ポイント）に上昇しました。テレワークの増加や密を避ける間取りなど新生活様式へのニーズが高く、一方で「売上停滞減少」は49.2%（前回比△1.5ポイント）に下落しました。

売上D I・収益D Iの推移

n=66



経営上の問題点



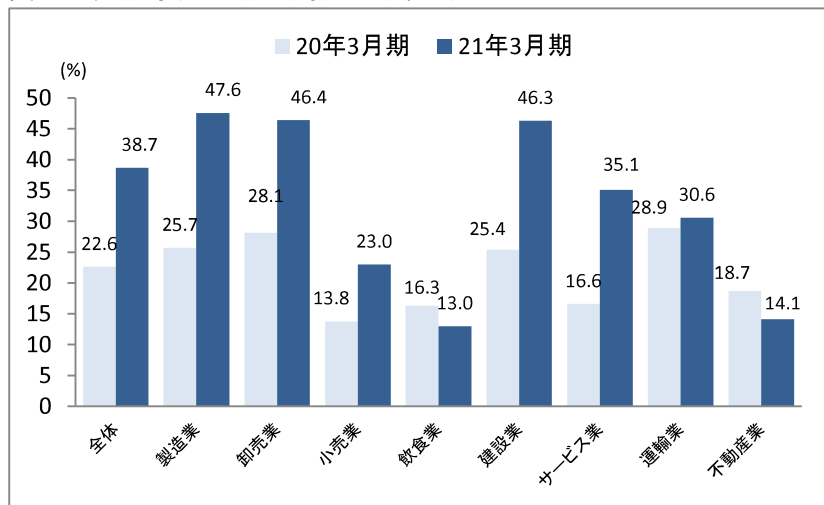
(中小企業診断士：芝田、竹並)

賃上げについて

賃上げ増加 定期昇給額増加

賃上げ実施予定企業の割合（業種別）

回答企業数：711社



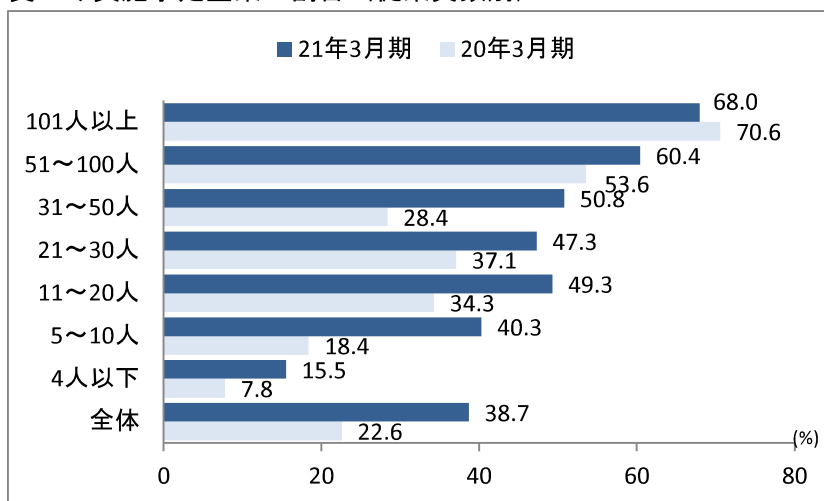
「実施予定」が38.7%、「実施しない」が61.3%となり、「実施予定」は昨年と比べて16.1ポイント上昇しました。

上昇した要因は、賃金の引き上げが「ものづくり補助金」など各種補助金申請の必須要件であることや、新型コロナウイルスのリスクを恐れる従業員を引き止めるためなど、様々あると思われます。

企業は苦しい中やむを得ず、賃上げに踏み切っています。

賃上げ実施予定企業の割合（従業員数別）

回答企業数：711社



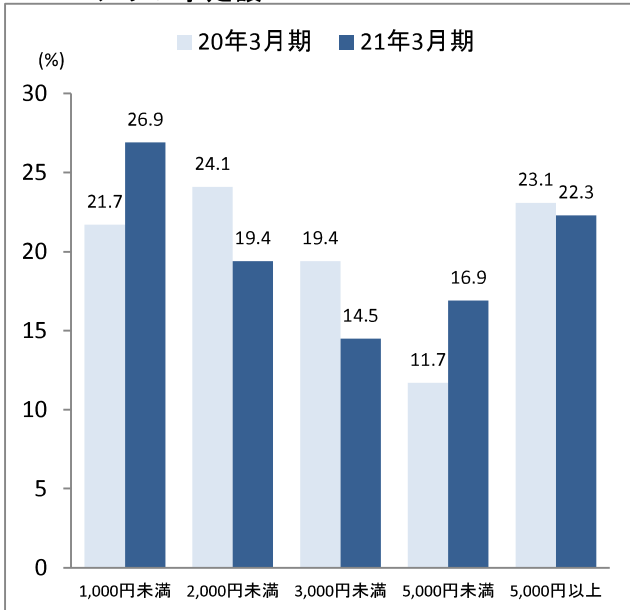
従業員数別では、従業員5人超の企業で全体の38.7%を上回っています。

従業員数が多くなるほど賃上げを実施する割合は増加する傾向があります。

ベースアップ予定額は下落傾向、定期昇給は上昇傾向となり、今後の景気回復に備え、苦しい中でも人材確保の必要性に迫られていると思われます。

ベースアップ予定額

有効回答数：242社口



定期昇給予定額

有効回答数：250社口

